

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-162	12-303	慶應義塾大学
題名（原題／訳）		
<p>Brief motivational interviewing intervention for peer violence and alcohol use in teens:one-year follow-up.</p> <p>ピア暴力のための短い動機の面談している介入と 10 代におけるアルコール摂取：</p>		
執筆者		
Cunningham RM, Chermack ST, Zimmerman MA, Shope JT, Bingham CR, Blow FC, Walton MA.		
掲載誌		
Pediatrics. 2012 Jun;129(6):1083-90. doi:		
キーワード		
日本語で記載 3～5 個程度		
要 旨		
<p>目的：</p> <p>救急治療部（ED）への受診は、将来の損傷の危険があり都会に住む若者の間での暴力とアルコール誤用を減らすために短期介入（BI）のよい機会である。以前の分析では、BI が 6 ヶ月間暴力とアルコールを減少させることを示した。本論文は、12 ヶ月でピア暴力とアルコール誤用に関して BI の有効性を調べた結果を述べる。</p>		
<p>方法：</p> <p>過去にアルコール摂取と攻撃性を報告されている ED を訪れた患者（14-18 歳）が無作為抽出試験に登録された。コンピュータ化された評価を含み、対照群または BI に対する無作為割当てはコンピュータまたはコンピュータを使用したセラピストにより加えられた。主な転帰尺度（ベースラインと 12 ヶ月後に測定）は、暴力（ピア攻撃性、ピア犠牲性、暴力関連の結末）とアルコール（アルコール誤用、不節制飲酒（ビンジ飲み）、アルコール関連の結果）であった。</p>		
<p>結果：</p> <p>合計 3338 人の若者がスクリーニングをうけた（88%が参加）。それらのうち、726 人は暴力とアルコール摂取の問題がある群としてランダムに選択された； 84%は、12 ヶ月追跡調査を完了した。対照群と比較して、コンピュータによって援助されるセラピストの群では 12 ヶ月でピア攻撃性（$P < .01$）とピア犠牲（$P < .05$）の有意な減少を示した。アルコール関連の変数は、BI 群と対照群で 12 ヶ月後に有意差はなかった。</p>		
<p>結論：</p> <p>ED 訪問の 1 年後に行った SafERteens 介入の評価は、コンピューターを利用したセラピストのピア暴力を減らすために、短期介入の有効性に示した。</p>		